

アニメで知る心の世界

こもれび心の診療所 羅田 享

今回扱うアニメ作品： 竜とそばかすの姫 その3

I. すずは何故歌えなくなってしまったのか？

高校生のすずが歌えなくなった要因として、彼女が幼い頃、母を水難事故で亡くってしまったことが、依然として受け入れられないことが大きいと考えた。その点に関してJ・ボウルヴィの悲哀の心理過程を用いて説明し、母の喪失が受け入れられないがゆえに、思春期の到来によって生じる喪失的体験を受け入れられずにした。そのためにすずは高校生になった主体的になれず、殻に閉じこもるような生活を送っているように感じられる。

2) 思春期の到来によって生じる喪失とは？

思春期になると、心身の成長の中で、主体性が立ち上がり、親からの自立、自ら人生の岐路を選択し、また成長に伴い、今まで理想な存在であった大人たちへの幻滅も生じ、学童期まで抑え込んできたエディプス葛藤が再び持ち上がり、彼らは自分自身のアイデンティティが揺らぎ、その中でいくつもの課題を

抱え、ここの様なことを経て彼ら思春期の世代に年齢の子達は（それが Adolescence Process）その情緒的葛藤を乗り越え、一人前の大人に成長していく。

しかしずずが幼少期に亡くしてしまった母の喪失が受け入れられないが故に Adolescence Process に伴う喪失・選択・幻滅・独立を受け入れられず、主体的になれず、殻に閉じこもるような生活を送っているように感じられる。

→cf 「あの花」のじんたん

3) ではなぜ、ずずは歌えなくなったのか？～潜在空間と移行空間～

ずずは幼少期に母に見守られながらスマホの鍵盤アプリを夢中になっていき、音楽を作り、そしてそれを母に聞かせときに一緒に歌うという幸福な空間がこのアニメでは描かれた。その母親に見守られながら夢中になって遊ぶ空間を潜在空間とウニコットは呼んでいる。

その潜在空間の中でずずは母の持っている鍵盤アプリという対象（移行対象）を発見し、それを使って夢中に遊び、創造的な活動をしていった。その潜在空間

で創造的な遊びを続ける中で、人は親から分離した一人の個として外的現実の中で主体的に関われる様になっていく。

しかしその母の死によって、幼いすずは、その作業（親から分離していく作業）を成し遂げられないまま、突然その空間が剥奪されしまった。それゆえに外界と主体的に関われず、幼い頃大好きだった歌も歌えなくなり、なにか殻に閉じこもるかのように、そういう情緒的葛藤から距離をとり、『月の裏側（ヒロちゃん評）』のようにひっそりと高校生活を送り続けていたと考えられる。

→すずには幼い頃母に見守られながら夢中になって歌い、音楽作りをしていた空間を取り戻す必要がある。つまりもう一度、潜在空間で自由に創造的に遊べる様になることが必要。

→そこで、ヒロちゃんから『U』の招待を受ける。

II. すずにとって『U』とはどのような存在であるか？

『U』とは？

『U』とはもうひとつの現実

「As」はもうひとりのあなた

現実はやり直せない

でも『U』ならやり直せる

『U』は所謂ヴァーチャルリアリティであるが、それは自分の内的世界の投影したものと他者（対象）が関わる、内的世界と外的世界の間のような世界である。

それはすずにとって『U』はデジタル技術が得意なヒロちゃんに見守られながら、すずが歌に没頭できる（主体性が確立できる良いようにする）潜在空間であると考えられる。つまり、母の死で失ってしまった、すずの潜在空間のやり直しをヒロちゃんが提供したと考えられる。

そのなかで、現実世界のすずは歌えることができなかったが、『U』の世界で、ベルになることで歌うことができ、尚且つ彼女の歌声は瞬く間に高評価をうけるようになっていく。そしてそれとリンクするようにすずの現実世界の高校生活が少しイキイキと感じられ、彩りを持ち始めている様に描かれている。

これは『U』ですずが歌える様になり、周囲から評価させることで、これまで途絶していた潜在空間が復活し、そこで歌い続ける中ですずは分離した一人の個として外的現実の中で主体的に関われる様になっていく。分離个体化が進んだとも考えられる。

『U』を通じてすずはどのように変わっていったのか？

その様に『U』でのベルの評価が鰻登りに上がっていく中で、すずはある出来事に遭遇する。それは密かに思いを寄せていた、幼馴染のしのぶ君から学校で声をかけられたことである。今回はその対話シーンをとりあげた。

その場面は『U』という潜在空間の中で創造的な活動をするなかで分離个体化

したすずが、次に待ち受ける心的課題を象徴している様に感じられる。

心的に成長したすずは、そのシーンで思いを寄せる幼馴染のしのぶ君に見守られる存在ではなく、対等な存在になりたいと感じ始めたように思われる。けれどもルカちゃんとしのぶ君が話している光景を見た時に自分はその中に入れな
いと思い、静かに立ち去ってしまう。

ルカちゃんはすずにとって憧れの存在であると同時に叶わない対象。そして
すず、しのぶ君、ルカちゃんという三者の関係性のなかですずはエディプス葛藤
を強く感じ、そこにはまだ自分を入れないと距離をおき、踵を返してしまう。

→今後、そのエディプス葛藤に向き合うことが必要不可欠。

→母の死を受け入れられないことによって止まっていた Adolescence Process を
進めていくこと

→喪失を受け入れ、妄想分裂ポジションの心性から抑うつポジションの心性に
移行させていくこと。

→そして『U』にてベルのコンサートに竜が出現してくる（悪い対象）

個人的にはこれがすずが内的世界の中での父の存在（現実世界で、すずが父に対して必要以上に距離をとり、関わることを拒絶しているのは情緒的に触れられることが怖いから）の様に感じられる。

Ⅲ. 竜はすずにとってどのような存在であったのか？

このアニメはディズニーアニメ「美女と野獣」がモチーフとなって作られた作品。魔法の魔法によって、あるお城に暮らす王子は野獣に変えられてしまう。王子にかけられた呪いを解くには、王子が人を愛し愛される「真実の愛」を探すことである。

ここで、野獣とは悪い対象であり、王子自身が今まで受け入れられなかった醜い部分であり、それをヒロインであるベルに受け止められ、ベルの優しさに気づき、その中で自身の醜さを受け入れ、人間らしい心（思いやりの心）を取り戻す。それは野獣にとって妄想分裂ポジションから抑うつポジションの移行であり、心の成熟を描いている様に感じられる。

「美女と野獣」で、野獣が王子に変わるという変化は男性側の心の成熟が描かれているが、「竜とそばかすの姫」はヒロインが如何に傷ついた対象を受け入れ、自身が成熟していくのか？という過程が描かれているように感じられる。それは「若おかみは小学生 劇場版」の喪失を受け入れられず、傷付いた心で花の湯旅館にやってきたお客さん達をどう、主人公のおっこが受け入れていくなかでおっこの心が成長してく過程と似ているように感じられる。

1. 竜とは？

『U』の世界でモンスター型 As。黒い竜のような獣の姿をしている。

背中に複数の痣があり、暴力的で『U』の世界に存在する武道場に乱入しては「道場破り」を繰り返し、As 達から忌み嫌われている。

その存在がベルのコンサート会場に乱入し、ジャスティス軍団に追い回され、ライブを台無しにし、その場の As 達は皆ブーイングをする。

しかしベルはその存在に怯えながらも、非常に気になってしまう。そして竜という人物が実際どんな人物なのかの詮索が始まるが、その多くがネット上では華やかな生活をしているように見せかけているが実際は孤独でひとりぼっちで、

そんな本当の自分に触れられないように攻撃性が強いことが見えてくる。

→その存在こそ、すず自身が距離を置き、分割して、否認してきた自身の情緒で

あり、すずは、ここでそこに向き合おうをし始めているように感じられる。

「傷つけられる……。竜の背のあざ……。もしかしたら……。」

すずはその竜の姿になにか惹きつけられる。ある種の自身の傷ついた心の投影である。そして竜に強い関心を持ち、竜のお城へと入っていく。

2. 竜と出会うこと、そして現実でおきたこと

1) はじめての竜との関わり～現実での出来事

竜のお城に導かれるように入ってしまったベル。

そこで竜に出会うが、ベル（すずの As）に対し、竜は恫喝する。しかしそこに

動じながらも怯まず、竜を知ろうとする。そして竜が天使 As に対して優しく包

み込み、その繊細な思いやりを感じ、ベルは「あなたの、本当の姿は、どっち」と尋ねる。

しかし竜は何も答えず去っていく。その一連の出来事に、現実の世界ですずは物想いに耽る。「すずが恋してる。それも、悪そうな男に」そしてアドバイスに従い歌を作ってみようとする。

【考察】

この過程は竜が投げ込む β 要素（心に消化できないモノ）をベルが受け止め、ベルは困惑しながらも考え、物想いに耽り、受け止めそして返そうとする（ α 機能、 α 要素）過程とも考えられる。cf 「若おかみは小学生」

それはベル＝すず自身が自身の色々な未消化な情緒に関心を持ち、学校内でしのぶ君との有らぬ噂を立てられ、それを必死にかき消そうとするように、もがきながらも現実世界に徐々に主体的に関わっていかうとしているように感じられる。

そして現実の世界ですずはルカちゃんからメールのメールを受ける。その内容は好きな人のことで話を聞いてほしいという内容であった。その後、しのぶ君に会っても「こんな私のことなんか、もう気にしなくていいんだよ。」といい、（この背景にはしのぶ君と対等な関係になりたいという思いもあるように感じられる。）自分の思いを打ち明けられない、一方でルカちゃんに「応援しているから」（ルカちゃんのようにいつも明るく前向きでいたい憧れ）というメールを送り、すずは「私、どうしたいんだろう」と言ってボロボロと泣き出す。

主体的に関わることは、これまで回避してきたエディプス葛藤に向き合うということ。しかしそのその中に入っていくことで、これまで抑え込んできた、憧れや嫉妬に伴う様々な情緒が溢れ出て、そんな自分にすずは驚き、混乱しているように感じられる。

2) 竜の前で歌うこと

竜は以前と同じようにベルに対して拒絶した態度をとるが、ベルがジャスティン達に取り囲まれ尋問され、脅されるところに竜は助けにくる。ベルはその優しさに触れ、自分が作った歌を竜の前で歌う。

一人にして欲しいと あなたは突き放すけれど

本当は胸の中にあるものを 覗かれたくないのでしょう

怒り 恐れ 悲しみ

抱えきれぬ夜

でも口にできない

聞かせて 隠そうとするあなたの声を

見せて 隠してしまうあなたの心を

その歌に徐々に竜は心を開き、ベルと一緒に踊り、楽しいひと時を送るが、割れる物音と共に、その和やかな雰囲気は一変してしまい、竜は苦悩し、ベルは何もできず、途方に暮れてしまう。

【考察】

この歌はベルが竜への想いの歌を綴った歌だが、一方で、自分自身がどうしたらいいのか解らない、その感情を素直に綴った歌のようにも感じられる。そしてそれはルカちゃんやしのぶ君といった憧れであるが、彼らには敵わないエディプス葛藤にまつわる情緒であり、そこに向き合おうとする（ルカちゃんや、しのぶ君と対等に関わりたい）が、なかなか素直にできない苦しさを歌っているようにも感じられる。

→そしてルカちゃんとの関わりが始まる

3) ルカちゃんとの対話

ルカちゃんがすずりに会いに来て、彼女はすずりに好きな人に上手く告白できなかった話をする。

ルカ「ううん。言われても仕方ないの。私が全然自信がないのが悪いんだし、実際キモいし……。」

そこですずりは必死にフォローしようとして思わず

「しのぶ君ひどい！」と口走ってしまう。実際ルカちゃんが好きなのはカミシンののだが。

そして二人はすずりの自宅で語り合う。そこですずりは6歳の頃にしのぶ君に『僕が守ってあげる』と言われ、プロポーズされたと思っていたエピソードを話し、ルカちゃんはしのぶ君のことを「お母さんみたい」という。

【考察】

『U』の中ですずりのAsであるベルが竜と情緒的交流をすることで、現実の世界のなかですずりは徐々に自身に向き合い、エディプス葛藤に向き合おうとする。

その中でルカちゃんに会い、ここでルカちゃんが完全無欠のヒロインではなく、彼女もすずと同様にコンプレックスを抱えた一人の女性であることを知る。それはすず自身が、抑うつポジションを受け入れつつあり、成熟したからこそ知ることができたと感じられる。

なぜなら、もし成熟できておらず、殻に閉じこもったままであれば、そこまでルカちゃんがしんみりした感じで、すずに語ることもなかったし、もし語ったとしてもすずはその言葉を真意と受け入れられず、「(ヒロインである)ルカちゃんがそんなこと思うわけない」と感じたのではないだろうか？つまり同じ立場の人であると受け入れられなかったのではないだろうか？

その後、ルカちゃんはカミシンに思いをつげて、受け入れられ、付き合うことになる。

4) ジャスティンとは？

ジャスティンは『U』の正義と秩序を守ると主張し、その世界を脅かす竜を追っている。

多数の企業とスポンサー契約しており、As を強制的にアンベイルする効果がある緑色の石を持っている。

「引き締まった筋肉の堂々たる体軀は強さと勇ましさを思わせ、それを包むバトルスーツは、高潔な人格を想像させた。まさにヒーロー、英雄、偉丈夫、正義の味方、救世主に呼ぶに相応しい（小説版）」

ジャスティンはすずのとしての超自我的側面であるように感じられる。すずはこれまで、自身の強い超自我に支配され、ある種その強固な枠を自分で作り出し、窮屈な生活を送ってきたと考えられる。

超自我とは？

自我を観察し、命令を与え、裁き、処罰によって脅かす存在。肛門期からエディプス期にかけて形成されていく。

ジャスティンが竜を捉え、竜の城を崩壊させたように、これまでのすずは自身の強い超自我により、自身の中にある孤独感や怒り、そして寂しいという情緒を悪い内的対象と捉え、そういったものを撲滅させようとしてきたように感じら

れる。

しかしベルがジャスティンの尋問に対して竜の住処を教えることを拒絶したようにすずは、これまでの強烈な超自我の在り方に疑義を感じ、すずの自我がその超自我に対して抵抗しているように感じられる。ある種、内的な世界での反抗期のようにも感じられる。